

「モミジの赤ちゃん (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

子どもたちが見つけた「モミジの赤ちゃん」。探すと、樹の下にいくらでも見つかった。樹木はたくさん種子を落とす割には、発芽率が低いものが多い。(例えばブナ科のコナラやクヌギ・・・いわゆるドングリ)しかし、カエデの仲間、意外にも発芽率が良く、こうした若芽がたくさん発見できる。



折ってはかわいそうなので、できるだけ土ごと掘って、あとで育てるように指導した。



赤く長い葉が「ふた葉」である。アサガオやヒマワリと同じように、木本(樹木)にもふた葉が存在する。本葉はまだ2枚しかないが、一人前にモミジの葉の形をしている。これが面白いところだ。新前の雲水でも菩薩なのと同じで、本葉が2枚でも樹木である。



これは、子どもが作った「モミジ温室」LG21の容器がここでも活躍している。このあとどうなったか聞いたら、「GW中に、どんどん育って、葉が5枚になったの。」と嬉しそうに話していた。



観察カードの1枚。時間切れで、文章が途中で終わってしまっている。「オレンジ色の葉は・・・」のあとには「モミジのふた葉です。」と書こうとしたのだろう。モミジの赤ちゃん・・・すばらしい教材だ。